

# TANIGO

## 丹後普及センターだより

発行 平成17年 1月  
 〒627-8570  
 京都府京丹後市峰山町丹波855  
 京都府丹後広域振興局内  
 京都府丹後農業改良普及センター  
 電話 0772-62-4308  
 FAX 0772-62-5894  
<http://www.pref.kyoto.jp/fukyu/mineyama-f/index.html>



昨年は台風が次々と上陸しましたが、なかでも23号は、丹後地域に大きな被害をもたらしました。被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。京都府では、「ブランド産地等緊急対策事業」などで被災施設の補助を行うとともに、普及センターも災害復興のため技術面の支援を行っています。

平成16年度京都府農林水産業功労者として、丹後管内からは7名の方々が表彰されました。平成16年11月27日(土)、京都府総合見本市会館において表彰状が授与されました。

### 農林水産業者の部

- 岡田 政 義さん(漁業) 京丹後市〔前列左1人目〕
- 黒垣 英さん(農業) 宮津市
- 堀江 新生さん(農業) 京丹後市〔前列右1人目〕

### 団体役員部の部

- 岡田 龍 平さん(漁業) 京丹後市〔前列右3人目〕
- 八木 一 弘さん(漁業) 伊根町〔前列左2人目〕

### 目 次

- より確かな京のブランド産品を消費者へ ..... 【2面】
- 認められました 自然循環型農業(加悦町) ..... 【3面】
- 普及センターが生まれ変わりました ..... 【3面】
- 蒸気土壌消毒(網野町) ..... 【4面】
- 人物紹介 川戸嘉津子さん ..... 【4面】

### 団 体 の 部

- 「ビッグファーマー野田川」野田川町  
代表 白須定義さん〔前列左3人目〕 他
- 「えぶろんおばさん」岩滝町  
代表 糸井英佐子さん〔前列右4人目〕

# より確かな 京のブランド産品を 消費者へ

平成16年9月から  
「京都こだわり(ブランド)  
生産認証システム」  
の運用を開始しています

## ブランド京野菜の躍進

平成元年から始まった京野菜のブランド化は、当初7品目3800万円の販売実績でスタートしましたが、府内や首都圏の百貨店・量販店などへの販促活動が効を奏し、平成15年度実績では105産地で21品目、約15億円の販売実績を上げるまでになっており、名実ともに京都の農産物のイメージリーダーとしてその成果を上げてきました。

出荷される京野菜の出荷箱や小袋などには京のブランドマークが貼られ、京のブランドであることをアピールしてきました。

## ブランド京野菜を 取り巻く情勢

ブランド京野菜の評価は年々高くなっており、みず菜や黒大豆枝豆の紫ずきんをはじめ、堀川ごぼうや伏見とうがらしなども首都圏に出荷されています。しかし一方では、売れる農産物として追従する他府県産の京野菜生産自体も増加している現実があります。

また、「食」の信頼感が低下する中、安心や安全の農作物を求める消費者の声も強く、各府県地域でも農産物の生産方法などの模索がされています。兵庫県では「ひょうご安心ブランド」認定制度として化学農薬や化学肥料を極力減らし残留農薬量を確認できるような仕組みづくりをしています。また、滋賀県では「環境こだわり農産物認証制度」で環境負荷を削減する環境こだわり農業の実施協定の締結を進めています。

## 「京都こだわり農法」とは

「京都こだわり農法」とは、土づくりを基本に京都で育まれた伝統的な栽培技術と最新の試験研究成果を融合させた農業生産技術です。栽培指針の中で「有機物資材施用技術」「化学肥料低減技術」「化学農薬低減技術」内容を示すとともにそれぞれの基準量や回数を示して、土づくりや化学肥料・化学農薬の使用を低減するものです。

## ブランドシールは 安心・安全の証

平成16年9月からは新たな生産認証システムの導入により、これまでのブランド産品の品質、規格、産地に加え、「こだわり栽培指針」に基づく生産と栽培記録の記帳が加わり、「種子」「技術」「土」「信頼」にこだわる生産・出荷体制が確立しました。

付加価値をつけた、より確かなブランド産品を生産・出荷していくことは販売促進上も重要になっています。

## みなさんとともに 最新の研究成果を現場に

京都こだわり農法の中では、化学肥料低減のための施肥方法や有機質肥料の施用技術、化学農薬の代替資材や効果的な防除方法の検討など総合的な技術の組み立ても必要になっています。普及センターでは、現場にあった省力的な方法や研究成果、新しい資材など効果の確認も行いながら「こだわり農法」の実践を進めたいと考えています。

また、出荷前には栽培方法を記帳確認されるため、日頃からの栽培記録が大切になります。正確な記帳をするためにも、こだわりを意識した栽培管理をお願いします。

地域の生産技術を詰め込んだ京ブランド。  
これからも生産が拡大し、京都・丹後から  
全国の京野菜ファンの食膳に  
上るものと期待されます。



認められました

# 自然循環型農業

## 「加悦町の自然循環型農業の取り組みについて」

加悦町では豆腐工場を誘致しましたが、この工場からは1日あたり最大4tのおからが発生します。

このおからを有効利用するために、平成12年に国・府の助成を受け有機物供給施設が設置されました。施設で産出された肥料は100%有機質で、「京の豆っこ肥料」の名で町内に流通しています。

「京の豆っこ肥料」は、町内の特産物である特別栽培米や、トマト、キュウリ、みず菜に利用されています。

また、京都丹後農業協同組合加悦施設園芸部会では、会員みんながJA出荷品目についてエコファーマーの認証を受けて、消費者へ安全・安心な農産物を提供しています。市場出荷はもちろん、地元販売にも力を入れており、トマト、キュウリでは全体の約30%が地元丹後で販売されています。

「京の豆っこ肥料」や自家製ぼか

し肥料等の有機質肥料の施用や地元で流通している堆肥の積極的利用により、青枯病や疫病といった土壌病害は現在ではほとんど発生していません。

このような取り組みが評価され、京都丹後農業協同組合加悦施設園芸部会は「第2回京都府土づくりコンクール」において「京都府農業協同組合中央会長賞」を受賞しました。



## 普及センターが生まれ変わりました

平成16年5月1日から新しい京都府の組織体制で出発しております。

京都府地方機関再編に合わせて、これまでの宮津と峰山の普及センターが一つになり、2市4町を管轄する「丹後農業改良普及センター」として生まれ変わりました。

今後とも丹後地域の農業・農村の地域振興に役立つため、皆様方のご支援と御協力をいただきながら頑張っておりますのでよろしくお願いいたします。

### ・ ・ ・ 丹後農業改良普及センターの体制 ・ ・ ・

所長 藤崎 徳治 (職員数23人)	
企画技術担当 (10人)	
総括担当	鹿野 光博
土地利用型作物	人見 寿人
	中村 一友
野菜・花	二木 仁
	四方 紀良
	衣川 昌宏
茶・果樹	植田 和郎
担い手育成	細井 大
加工・地産地消	長谷川裕司
交流・地域づくり	尾関 朝子
地域支援担当 (12人)	
総括担当	松原 徹
宮津市南部	小林 俊博
宮津市北部・伊根町	曾根 秀樹
加悦町	塩見 綱一
岩滝町・野田川町	市田 孝博
京丹後市峰山町	上山 圭子
大宮町	河崎 宏也
網野町	荻野 一郎
丹後町	小川 隆
弥栄町	塚原 淳二
久美浜町	松藤 宏之
久美浜町	黒川真奈未

(平成16年5月1日)

## 紹介します

# 蒸気土壌消毒技術

臭化メチル剤は、その効果の高いことや手軽さから広く使用されてきましたが、オゾン層を破壊する物質であることから、本年から使用が規制されることとなりました。今後は、農産物の生産・流通上どうしても必要な場合を除き、購入することはできません。

そこで、京丹後市網野町では代替技術として蒸気土壌消毒に着目し、昨年、府内で初めて蒸気土壌消毒機を事業導入しました。これは高温の蒸気を発生させて圃場へ送り込み、その熱により圃場を加熱し、土壌伝染性の病害の殺菌や雑草種子を絶やす方法です。蒸気消毒は臭化メチルと比較して、

- ①消毒に要する日数が少ない
  - ②処理の1～2日後には播種・定植が可能  
(薬害の恐れがなく、ガス抜き不要)
  - ③人体に有害なガスを吸収する心配がない
- というメリットがある一方で、

- ①労力・作業時間は多い
  - ②経費はやや高い
- といったデメリットがあります。

蒸気土壌消毒では、土壌のマンガン濃度が高まることが知られています。また、マンガン濃度は一旦高まると低下するまで一定の期間を必要とします。網野町には、マンガンを多く含む土壌がありますので、メロン等のようにマンガン過剰症を発症しやすい作物を栽培する場合には、これらのことの注意が必要です。

この他、作物の樹勢が強まるという現象が見られます。これは根群の生育がよくなることと関係があると考えられています。樹勢調節の必要な品目においては施肥量の適正化が課題となります。



〈蒸気土壌消毒ほ場〉

〈対照ほ場〉

## 人物紹介



### 受賞されました

社団法人大日本農会平成16年度農事功績表彰者として川戸嘉津子さんが「緑白綬有功章」を受賞されました。川戸さんは、国営開発農地を利用した大規模葉タバコ、水稻・野菜栽培、こんにゃく加工を組み合わせた複合経営の確立をされました。また、地元小中学校・直販など地産地消の取り組みの他、女性農業士・農業委員として農村の活性化・農村女性の地位向上にも貢献されています。

平成16年11月17日、東京で受賞された川戸嘉津子さん